

② 場面の解決方法の比較

＜学校に行きたくない場面での解決方法＞

[先生：「先生に援助してほしい」、友達「友達に援助してほしい」、自分「自分で解決したい」]



ア 全体的な傾向として、解決方法として最も高いのは「自分で解決したい」というもので、以下「友達に援助してほしい」、「先生に援助してほしい」が続く。「先生に援助してほしい」が比較的高いのは、学習や進路に関する質問肢の5-4、~5-6に限られる。

このことから、先生に対しては、悩みや困難な状況での相談相手としての役割よりも、学習面や進路の面での助言者としての役割を期待していることを示している。

イ 特に「友人関係」に関することや、個人の悩みである「性格」や「体型」に関する質問肢では先生や友達への援助をあまり期待していない。

中でも「先生に援助して欲しい」という割合が低くなっているのが気になるところである。

ウ A群、B群、C群の比較で見ると、「自分で解決したい」という欲求については、C群において全体的にやや高くなっている。

[どのくらい自分で解決したいか]

5-4「授業が理解できない」

